

10月3日（月）

あいさつのお話をします。

みなさんは、よく「あいさつをしましょう」と言われますね。学校に入ってからでもそうですが、幼稚園や保育園のころも、先生やおうちの人から言われたことでしょう。

あいさつは、なぜするのでしょうか？なぜ、しないと「しなさい」と言われるのでしょうか。そのわけがわかっていないと、よいあいさつはできません。

あいさつは、人と「つながる」ためにするのです。

人間は、一人では生きていけません。一人で生きているつもりの人でも、ぜったいに、気がつかないうちに、いろいろなところで、いろいろな人のお世話になっているはずですよ。

あいさつができると、相手に「あの人は、よい人だな」「あの人は敵ではないな」「なかよくしてみたいな」と思わせることができます。そうすると、初めて会ったひとともお話をし、困ったときに助けてもらったり、仲良くしたりすることができます。

あいさつが上手にできるようになって、たくさんお友達ができたほうが、人生、楽しいですね。

さて、学校では、みなさんが、よいあいさつができる社会人になれるように、たくさん訓練をします。

今週の途中から、「あいさつ週間」の取組も始まります。

あいさつをするとき、こういうことに気をつけるとよりよいあいさつができますよ、というこつを教えます。

① 人に会ったら、「すぐに」あいさつをしましょう。「むこうからあいさつをしてくるかな」と様子を見てしまうひとはいませんか？せっかくなので、待たずにすぐに何かあいさつをしましょう。

② 自分から「先に」あいさつをしましょう。ちょっと恥ずかしがっている人の心を助けてあげる気持ちになって、自分からあいさつができるとよいですよ。

③ 相手の「目を見て」あいさつをしましょう。時々、「地面にあいさつしているのかな」と思うくらい、下を向いたままで何か言っている人を見かけます。恥ずかしいのでしょうか。お話を聞くときと同じように、しっかりと、目を見て挨拶をしましょう。相手が「この人は、自分にあいさつをしてくれているのだな」とわかるような挨拶がいいですね。

この3つを心の中に入れてすごしましょう。もっとよいこつが見つかったら、みんなで教え合って、あいさついっぱいになるといいですね。